

委員の発案で持続可能な集落づくりに向けた毎月15日の話し合いを継続

京都府 宮津市農業委員会 日ヶ谷15日会の取組紹介

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	14人
○ 農地利用最適化推進委員：	10人
○ 事務局職員：	3人
○ 市町村行政との連携状況：	
組織を結合し常時連携を可能としている	



2 地区の特徴、状況、課題

（市町村の概要）日本三景特別名勝「天橋立」を有する京都府北部「海の京都」の観光都市

（地区の概要）市の最北端に位置した山間地であり、潤沢な水源と良質な土壌から根菜類を中心に豊かな食材を供給

（地区の課題）人口減少による担い手不足と、深刻化する鳥獣被害の拡大により農地の荒廃化が加速。加工施設や伝統野菜の後継者を求めている。

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和3年11月より毎月1回15日に、農家・非農家・事務局が約20人参加して、地域の将来について話し合いを行い、回数は36回を数える。
- 事務局職員等がファシリテーターを務め、会議は「気楽に！楽しく！中身濃く！」をモットーに、地域内の課題に対して、グループワーク中心に参加者の意見を取り込み、地域計画の策定に取り組めた。
担い手・後継者対策についても、移住者や新規就農者を受け入れる体制づくりを進めた。

4 成果（地域計画の実行に向けた取組内容）

- 令和4年度末に日ヶ谷地域のプランを作成、このプランをベースに地域計画の話し合い・策定を進めた。
- 受入支援組織として、自治会・地域会議・公民館・農業団体などで結成した「日ヶ谷ぐらし応援隊」を設置。集落にある空き家を独自に調査し、所有者とのパイプ役と担うなど今後の本格的な受入に備えている。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください